

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

大幸薬品

4574 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2017 年 3 月 21 日 (火)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

■ 業績動向

2017 年 3 月期第 3 四半期は大幅増益を達成 インフルエンザ流行等を背景に感染管理事業が好調

大幸薬品 <4574> は、「正露丸」「セイロガン糖衣 A」を中心とする医薬品事業と、ウイルス除去・除菌・消臭製品「クレベリン」シリーズを中心とした感染管理事業を展開している。

● 2017 年 3 月期第 3 四半期の業績概要

2017 年 3 月期第 3 四半期（2016 年 4 月 - 12 月）は、売上高が 6,058 百万円（前年同期比 0.7% 減）、営業利益が 1,759 百万円（同 37.1% 増）、経常利益が 1,636 百万円（同 24.1% 増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が 1,251 百万円（同 61.6% 増）となった。売上高は前年同期並みだったが、各利益において大幅な増益となった。

売上高に関しては、事業別に明暗が分かれる。国内医薬品事業は、止瀉薬（ししゃやく、下痢止め薬）市場の停滞傾向、期初の流通在庫高による出荷減少、競合他社製品の台頭等によるシェア減少、樋屋奇応丸ブランドの販売契約終了等が影響し売上を落とした。海外医薬品事業は、中国への輸出に必要なライセンス更新に伴う一時的な出荷停止、香港への中国からの観光客減少等により大幅減収となった。なお、中国への出荷再開は第 4 四半期になるもようだ。感染管理事業は、季節性インフルエンザやノロウイルスによる感染性胃腸炎等の感染症の流行を背景として、一般用製品を中心に出荷が増加した。さらに、新製品「クレベリン×ベアブリック」の発売に加え、業務用製品の出荷増もあり、感染管理事業は対前年同期比 59.9% と大幅増となった。二酸化塩素製品市場が前年同期比 18% *増に対して、同社クレベリン製品の店頭販売額（POS）は同 26% *増で推移しており、トップブランドとして市場シェアをさらに高めたことがうかがえる。

※ 同社調査データ

売上総利益は主に円高による影響で減少したが、販管費が前年同期比 17.3% 減の 2,636 百万円と減少したために、大幅な営業利益の増加となった。効果的な広告宣伝の実施を目的として TVCM を減らし WEB 媒体にシフトしたことの結果、広告宣伝費は同 49.9% 減の 408 百万円となった。

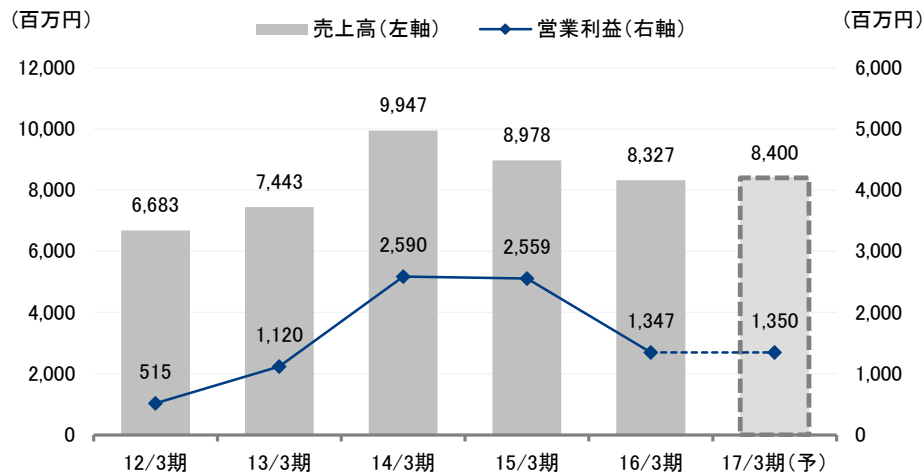
2017年3月期第3四半期 連結サマリー

(単位：百万円)

| | 16/3期3Q累計 | | 17/3期3Q累計 | | 前年同期比 | 変化要因 |
|------------|-----------|--------|-----------|--------|--------|---|
| | 金額 | 売上比 | 金額 | 売上比 | | |
| 売上高 | 6,099 | 100.0% | 6,058 | 100.0% | -0.7% | |
| 内) 国内医薬品事業 | 3,124 | 51.2% | 2,737 | 45.2% | -12.4% | 止瀉薬市場の停滞、期初流通在庫高、競合他社製品台頭によるシェア低下、樋屋奇応丸ブランドの販売契約終了等の複合要因で減少 |
| 内) 海外医薬品事業 | 1,307 | 73.3% | 676 | 11.2% | -48.2% | 中国への輸出に必要なライセンス更新に伴う一時的な出荷停止等で減少 |
| 内) 感染管理事業 | 1,646 | 27.0% | 2,633 | 43.5% | 59.9% | インフルエンザ等の感染症流行を受け店頭販売好調 |
| 売上総利益 | 4,472 | 73.3% | 4,396 | 72.6% | -1.4% | 主に円高による影響で減少 |
| 販管費 | 3,189 | 52.3% | 2,636 | 43.5% | -17.3% | 広告宣伝費の内容見直し等で552百万円減少 |
| 営業利益 | 1,283 | 21.0% | 1,759 | 29.0% | 37.1% | |
| 経常利益 | 1,318 | 21.6% | 1,636 | 27.0% | 24.1% | 未稼働設備関連費用180百万円計上 |
| 四半期純利益 | 774 | 12.7% | 1,251 | 20.7% | 61.6% | 補助金収入100百万円計上 |

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

通期業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

第3四半期の各利益は既に通期予想を超過 増配発表、通期の着地も上振れを期待

● 2017年3月期の業績見通し

2017年3月期通期の業績予想は売上高で前期比0.9%増の8,400百万円、営業利益で同0.2%増の1,350百万円、経常利益で同15.1%減の1,110百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同1.2%増の850百万円と期初の予想を据え置いた。国内医薬品事業における市場の伸び悩みや競合激化がマイナス要因ではあるが、海外医薬品事業では中国への出荷再開が第4四半期に見込まれることや香港や台湾も計画どおりに進捗しているようでありプラス要因だ。感染管理事業においては、季節性インフルエンザの流行が前年より早く始まったことに加え、ノロウイルスによる感染症胃腸炎の流行も前年を上回る水準で推移する等、追い風が吹いている。例年第4四半期には花粉症商戦が始まるため、クレベリン製品の出荷減少や返品発生等のマイナス要因も想定されるものの、店頭販売は依然好調なようであり、今期は先が読みづらい。

一方で、同社は3月16日に、2017年3月期の期末配当予想を上方修正（増配）する発表を行った。期初の1株当たり配当予想15円に対し、特別配当5円を加え、1株当たり配当予想20円とした。その理由として、当期は感染管理事業が好調に推移していることを挙げている。既に第3四半期決算の各利益が通期予想を超過していることに加え、業績好調により増配が発表された状況を勘案すると、通期業績は予想を上振れての着地になることが期待される。

業績の推移

(単位：百万円)

| | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 前期比 | 経常利益 | 前期比 | 純利益 | 前期比 | EPS (円) | 配当 (円) |
|----------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|---------|--------|
| 12/3期 | 6,683 | 44.7% | 515 | - | 558 | - | 482 | - | 37.23 | 15 |
| 13/3期 | 7,443 | 11.4% | 1,120 | 117.7% | 1,211 | 116.8% | 1,037 | 115.2% | 81.31 | 15 |
| 14/3期 | 9,947 | 33.6% | 2,590 | 131.3% | 2,683 | 121.5% | 1,747 | 68.4% | 135.94 | 25 |
| 15/3期 | 8,978 | -9.7% | 2,559 | -1.2% | 2,776 | 3.5% | 1,770 | 1.3% | 138.93 | 25 |
| 16/3期 | 8,327 | -7.3% | 1,347 | -47.3% | 1,307 | -52.9% | 840 | -52.6% | 65.23 | 15 |
| 17/3期(予) | 8,400 | 0.9% | 1,350 | 0.2% | 1,110 | -15.1% | 850 | 1.2% | 65.24 | 15 |

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 中長期の成長戦略

アース製薬グループとの共同開発製品を発表

● アース製薬との共同開発製品発表

同社はアース製薬グループとの共同開発製品として2製品を発表した。「クレベリン トイレの消臭除菌剤」は、アース製薬本体との共同開発製品第1弾で、クレベリンの消臭・除菌機能をトイレ用消臭・芳香剤に応用したものである。二酸化塩素には不快な臭いの原因菌を除去する効果や揮散する性質があるため、空気中での除菌による消臭効果が期待できる。この点が、一般的な消臭剤とは異なり画期的である。同社がクレベリン中間製品を製造し、アース製薬が最終製品化、営業、マーケティングを手掛ける。

「JOYPET ×クレベリン ペットまわりの除菌・消臭 ゲル・スプレー」は、アース製薬の子会社であるジョンソントレーディングとの共同開発製品である。今回が同社による初のペット市場への本格参入となる。犬や猫等のペットの衛生製品のトップブランドである「JOYPET」と「クレベリン」のダブルブランドで展開することで、両社の強みを生かす考えだ。同社が製品を製造し、ジョンソントレーディングが営業、マーケティングを手掛ける。

これらの取り組みにより次のようなメリットが期待できる。1) 通年性の製品であるため従来インフルエンザシーズンに偏っていた感染管理製品売上の季節性を平準化できる。2) アース製薬グループの協力によりクレベリンブランドの価値向上や二酸化塩素製品市場の活性化を図れる。同社は今後も他社とのアライアンスを重視し積極的に活用していく考えだ。

アース製薬との共同開発製品発表

- アース製薬と資本業務提携に基づく二酸化塩素ビジネスの共同事業
その共同開発製品第1弾を発表(2017年1月12日)

アース製薬との共同開発製品



「クレベリン トイレの消臭除菌剤」

出所：決算説明会資料より掲載

アース製薬のグループ企業 ジョンソントレーディングとの共同開発製品



「JOYPET ×クレベリン
ペットまわりの除菌・消臭 ゲル・スプレー」

大幸薬品 | 2017年3月21日(火)
4574 東証1部 | <https://www.seirogan.co.jp/ir/>

医薬品事業における約50年ぶりの新製品 「正露丸クイックC」を発表

同社は医薬品事業において、正露丸、セイロガン糖衣Aに次ぐ約50年ぶりの新製品「正露丸クイックC」を発表した。本製品は、正露丸、セイロガン糖衣Aの主成分「ホクレオソート」の単味生薬製剤である。中身が液体のソフトカプセルで、すばやく溶け出し、胃で吸収されるので、急な下痢等のトラブルに効果がある。2017年4月の販売開始を予定している。また、同社は、新CMを5月より全国放映し、併せてWEBサイトやSNSを通じて製品情報を発信し、止瀉薬のエントリー層である若年層に対して使用機会の浸透を図っていく。

本製品の投入を契機に、同社は止瀉薬市場シェアを直近の47%から50%までに回復させたい意向であり、本製品が苦戦している国内医薬品事業の救世主になりうるか、今後の動向が注目される。



出所：ホームページより掲載

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ